

|      |  |      |        |          |             |
|------|--|------|--------|----------|-------------|
| 科目名  | 地域診断論 (Community Analysis)   |      |        | 科目コード    | 234         |
| 開講学科 | 看護学科   | 選択区分 | 必修     | 単位数 (時間) | 2 単位 (45時間) |
| 科目区分 | 専門科目   | 履修時期 | 2 年次後期 | 関連DP     | 看②③         |
| 担当教員 | 田中 美延里、野村 美千江、奥田 美恵、入野 了士、窪田 志穂、長尾 奈美  |      |        |          |             |
| 授業概要 | 以下の項目について教授する。<br>1 地域診断の基本的な考え方と方法を概説し、生活圏での地区踏査を中心とした演習を実施する。<br>2 地域づくりに求められるグループ・組織との連携・協働のあり方を教授する。<br>3 地域看護活動の展開における生活と健康に関連する社会資源の活用と創出の視点を教授する。 |      |        |          |             |
| 授業目標 | 1 地域看護活動の展開における地域診断の意義とその方法を理解できる。<br>2 実践例を通して、地域づくりに関するグループ・組織と連携・協働のあり方を理解できる。<br>3 地域看護活動の展開における生活と健康に関する社会資源の活用と創出の視点を理解できる。                        |      |        |          |             |

授業計画

| 回            | 項目  | 内容                             | 担当者                   |                |
|--------------|---|--------------------------------|-----------------------|----------------|
| 1            | 地域看護と社会   | 個人・家族の背景としての地域、活動のパートナーとしての地域  | 田中美延里                 |                |
| 2            | 地域特性に応じた地域看護活動(1)   | ルーラルエリアにおける看護活動 (教育協力者)        |                       |                |
| 3~4          | 地域特性に応じた地域看護活動 (2)  | 実習地の活動事例紹介                     |                       |                |
| 5            | 地域診断の目的と展開過程  | 地域診断の枠組み、アセスメントの過程             |                       |                |
| 6            | エスノグラフィーと地域看護   | エスノグラフィーと看護、地域診断への活用           |                       |                |
| 7            | 地区踏査の方法   | 地区視診・参加 (参与) 観察、インタビュー         |                       |                |
| 8~9          | 既存資料と社会調査の活用  | 既存資料の種類、社会調査の意義と身近な例           |                       |                |
| 10~11        | 地域診断に活用できるモデル   | Community as Partner Model     |                       |                |
| 12           | 地区踏査の計画立案 (演習)  | 地区踏査 (個人ワーク) の計画検討             |                       | 田中美延里<br>担当者全員 |
| 13~14        | グループ・組織との連携・協働 (1)  | グループ・組織の種類と機能                  |                       | 田中美延里          |
| 15~16        | グループ・組織との連携・協働 (2)  | グループ支援、地区組織活動                  |                       | 窪田志穂           |
| 17~18        | 地区踏査グループ報告会 (演習)  | 地区踏査 (個人ワーク) の発表               | 田中美延里<br>奥田美恵<br>窪田志穂 |                |
| 19           | 生活と健康に関する社会資源(1)  | 個人・家族支援のための社会資源活用<br>社会資源創出の視点 | 田中美延里                 |                |
| 20~21        | 地区踏査全体報告会 (演習)  | グループ推薦作の発表                     | 田中美延里<br>担当者全員        |                |
| 22           | 生活と健康に関する社会資源(2)  | 地域資源を活かしたまちづくり (教育協力者)         | 田中美延里                 |                |
| 23           | まとめ   | 講義演習の要点整理                      |                       |                |
| 成績評価方法       | レポート 80%、グループ学習への参加態度 20%   |                                |                       |                |
| 教科書          | 荒賀直子・後閑容子「公衆衛生看護学.jp 第4版 データ更新版」(インターメディカル)                                     |                                |                       |                |
| 参考図書等        | エリザベス T. アンダーソン・ジュディス・マクファーレイン、金川克子・早川和生「コミュニティ アズ パートナー 地域看護学の理論と実際 第2版」(医学書院) |                                |                       |                |
| 授業時間外の学習について | 授業内容を生活体験と関連付けてふりかえることを重視する。<br>計画的に課題レポートに取り組む必要がある。                           |                                |                       |                |
| 関連科目         | 232 地域看護学概論、211 健康教育論、235 地域看護学方法論、238 地域看護学実習<br>在宅・公衆衛生看護学の科目群                |                                |                       |                |
| 備考           | 地区踏査に掛かる交通費は自己負担とする。  |                                |                       |                |